

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	0790400360		
法人名	社会福祉法人 明生会		
事業所名	グループホーム悠		
所在地	福島県いわき市平赤井一の町62-1		
自己評価作成日	平成31年4月20日	評価結果市町村受理日	令和元年7月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	令和元年6月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな、住み慣れた地域で「その人らしさ」を大切に、持っている力を発揮しながら、安心と尊厳のある暮らしができるよう取り組んでおります。

1. 事業所では協力医療機関との連携体制が確立されており、月2回の往診がある。また、看護師も配置され、24時間のオンコール体制がとられており、利用者は常に適切な医療を受けられる体制となっており、利用者はじめ家族の安心につながっている。
2. 事業所では設立時より地域とのつながりを大切にしてきており、毎年中学生の職場体験を受け入れたり、今後はこの機会に認知症サポーターの講習会を企画している。今年度は地域住民を対象にした公民館の「認知症予防講習会」に講師として参加することになっている。ボランティア(歌、踊り、三味線演奏、生け花等)も数多く受け入れ、日常的に交流している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会福祉法人明生会の理念とグループホーム悠の基本理念を玄関に掲示し日常において職員がその趣旨を理解し実践につなげている。又、毎月の職員会議の復唱し共有を図っている。	事業所では「基本理念」と「行動計画」を策定し地域密着型事業所を目指している。双方ともに玄関に掲示し、月例の「職員会議」で唱和し全職員が共有し日常のケアで実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供避難の家に登録し地域の子供達に活用していただけるようにしている。中学生の学習体験の受け入れ、子供神輿の訪問がある。又、月に2回地域のごみ拾いを行っている。	地域住民との交流は地域のお祭りや事業所の行事を通して日常的に交流している。「赤井駐在所」との交流や、地区の小学生の子供ラジオ体操会場として開放したり、中学生の職場体験受け入れ等地域との関係構築を図っている。子供神輿や歌謡・子供フラダンス・三味線演奏等ボランティアも多く受け入れており、利用者の楽しみになっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域方の相談の受け入れや中学生の体験学習の際に認知症についての理解や介護に対しての理解を深めていただけるよう努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的に開催しており、ご利用者様やご家族、民生委員、地域包括支援センター、駐在様などへの報告や意見交換を行い、参考にしその後の運営に活かすよう努めている。	運営推進会議は定期的に開催されている。委員からは毎回様々なアドバイスや助言があり、駐在所員の防犯をはじめ現在の犯罪の状況等の報告には参加者全員が参考にしている。事業所から活動状況、食事メニュー、ヒヤリハット等を報告し、各委員からの意見や要望は「職員会議」でさらに検討され事業所運営やサービスに活かされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	機会あるごとに相談しており、事業所の情報を提供したりしている。介護相談員、地域包括支援センターの方との連携を行っている。	市担当者とは事業所運営や利用者状況等についてその都度相談しており、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や中庭など自由に出入りできるようにしている。利用者の行動や行為を阻止しない取り組みをしている。	「身体拘束等適正化委員会」は平成30年4月に設置しこれまで4回開催している。職員の研修を通してマニュアルの理解を深め、全職員が共通認識のもと拘束のないケアに努めている。日中は玄関の施錠は無く利用者行動を制限しない取り組みを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通して虐待について職員全員が理解し実行している。言葉かけにも注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行った時の資料を各自保管し常に目を通すよう努めている。国や市の広報があった場合は、回覧を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に十分説明し、理解、納得を頂いた上で契約を結んでいる。ご家族の不安や疑問には、必要時にその都度説明し、同意を貰っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や面会時、運営推進会議時に出席者に声掛けを行い意見の汲み取りに努めている。	利用者の要望等は日々のケアの中で把握している。家族の意見等は面会時や受診後の連絡等を通して把握しており、意見等はスタッフ会議で検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員ミーティングや勤務時においても職員の意見や提案が聞けるよう努めている。	管理者は日常から職員との話しやすい環境づくりをしており、「職員会議」等で職員の意見や要望を聴取している。職員から出された意見や要望は、全職員で検討周知され事業所運営に反映されている。課題によっては本部に検討を要望するなど反映できる体制となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体の管理者会議で十分に話し合いを設け、各自の状況や実績に合わせた環境把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への多数の職員が参加できるよう提供を行い、参加後は全職員に報告し共有する。法人内の全体研修が行われるときは、参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会などと連携を取り交流を深めながらサービスの向上を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴や入所に至るまでの経緯を職員全員が理解し、共有する。利用前に面談を行い本人、家族の要望を確認して信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族の状況を理解し、共感しながらそれぞれの思いを受け止め不安内容や要望を丁寧に確認して関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用時に何を必要としているのか、本人、家族の要望を見極めて必要とする支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護するだけではなく、人生の先輩として学び、本人を中心とした、本人が安心して共に生きる仲間として支え合う関係を築けるように努めていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時には、日々の暮らしの様子をお伝えし、意向もうかがい参考にしている。又、状況の変化の度に家族と情報を共有し、支え続けていく関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや散歩など慣れ親しんだ地域へ出かけたり、古くからの知人が遠慮なく面会に来られるよう配慮し支援している。	家族の協力を得ながら利用者が慣れ親しんだ地域や名所に出かけたり、本人や家族がこれまで築いてきた人間関係が途切れないよう支援している。知人や友人の訪問時には居室に小さなテーブルを用意する等、訪問者と利用者がゆっくり歓談できるように支援している。市立移動図書館の訪問もあり、新しい馴染みの関係も築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の合う方同士が寛げるような席の配置をしたり、外出支援を機会に仲間作りができるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、機会を作り訪ねてたり、情報を頂いたりと良好な関係に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の希望や意向の把握に努めている。本人の確認が困難な場合は、面会時などに家族と検討している。	担当職員が、利用者とは日々の会話や行動から思いや希望を聴取している。会話が困難な利用者は日頃のケアを通して表情や態度から思いを汲み取り利用者本位の支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の生活歴を把握し、使い慣れた家具などの必需品を居室に置くなど、環境を整え継続できるよう支援して行く。家族の面会時などを利用し情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状況を把握し、それぞれに合ったケアを行うように努めている。又、本人の有する能力の発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティング時に職員全員でモニタリングを行いそれぞれの気づきと対応を話し合い反映に努めている。	利用者、家族等の意見を踏まえ、関係者が話し合い利用者の現状に即した介護計画を作成している。個別記録等をもとに職員全員で検討会議を行い、定期的に介護計画の見直しをしている。利用者の状態の変化があった場合には随時計画の変更を実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者ごとに個別記録を用意し、生活記録や食事量、排泄のリズムなどを記入し、情報を共有しながら新たな気づきに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせ、利用者や家族の要望、ニーズに柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお店を利用したり小中学生との関わりを持ち、また地域の警察や民生委員とも情報を交換し、連携に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制を結んでおり、定期的な往診に加え、いつでも適切な医療が受けられるようにしている。かかりつけ医との継続連携も行っている。	協力医療機関の往診が月2回ある。皮膚科等の専門医の受診には家族対応を基本としているが、緊急時には職員が同行することもある。受診結果は電話や医師から交付された診療情報書送付等で家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師、介護職が情報交換を行い、常に適切な受診や看護が出来る体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に面会に行き、家族、主治医、看護師、相談員と話し合いながら、退院後の受け入れを整える。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身の状況の変化は家族へ報告し、重度化した場合にはホームで出来ることをあらかじめ伝えると共に本人、家族の希望に沿ったケアになるように話し合う事に行っている。看取りを行っている。	事業所では、「重度化した場合における対応」「看取りに関する指針」「終末期における確認事項」「終末期ケアについての同意書」を策定しており、利用開始までに十分説明し家族の同意を得ており、当面した時点で再度、医師・看護師・家族が話し合い柔軟に対応している。全職員が心をついてターミナルケアの実践にあたっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生やAEDの使用法を定期的に学び、ミーティング時に看護師を交え緊急時の対応について話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に自主訓練を行い、年に一回から二回の消防署員立ち合いの講習を受けている。	年2回消防署立ち合いの訓練は実施されている。事業所独自の通報・避難・夜間想定等の各種訓練は年4回実施されている。法人では「防災マニュアル」が定められており、職員は毎回参加し意識を共有している。地域の商店と災害時協力を取り付け連絡先となっている。また、水・レトルト食品・缶詰等3日分備蓄されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いに注意しながら、一人ひとりの生活歴や性格に合った言葉かけを行うよう努めている。	利用者の尊厳を大事にした言葉かけや対応に全職員が意識を共有し対応している。個人情報の簿冊等は施錠可能なキャビネットに保管している。情報紙「Haruka便り」に掲載する写真等は家族の掲載同意を得たもののみ掲載している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望などを表せるような言葉かけや環境を作り、自由に表現出来るような接し方に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに「寄り添って本人のペースを優先し見守りや話を傾聴している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい、おしゃれや見だしなみを大切に生活が明るく楽しくなるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	栄養士によるバランスの取れた献立を提供している。	献立表は法人の栄養士が策定しており、食材は地元の商店より購入している。差し入れ品を活用したり好物等を取り入れながら、献立の変更をしている。各テーブルに職員を配置し、様々な事柄を話題にしながら食事を楽しんでいる。利用者の体調により、おかゆや刻み食の対応も可能である。行事食も多く実施しており利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により計算されている。固さや大きさも一人ずつ工夫し食べやすいように支援している。又こまめな水分補給に気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態に応じたケアの支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を促せるよう声掛け誘導を行っている。	排泄はトイレでの自然排泄を目標としているが、利用者によっては困難になりつつある。排泄チェック表等を参考に会話や仕草等からトイレに静かに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排泄の確認を行い、適度な運動、水分摂取に気を配り便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の入浴の希望を伺い、順番やタイミングを調整しながら支援して行く。	入浴は利用者の希望により実施している。入浴を嫌悪する利用者には担当者・話題・時刻等を変えながら誘導している。利用者の体調によりシャワー浴・足湯・清拭等で対応している。季節感のあるゆず湯や菖蒲湯等も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように配慮しつつ、居室で休む時間や一人で過ごす時間をたいせつにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書を椅子でも確認できるよう、ファイルしており、必要があった場合、職員全員が確認できるようにしている。服薬においては、職員が名前を確認し手渡し、飲み込んだかの確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれ好きな役割があり、負担にならないよう支援している。又、生花や歌などを楽しめるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気や体調を考慮して、ドライブや散歩、買い物に出かけている。季節に合った行事への参加提供を行っている。	重度化により全員で外出する機会は従来より減ってきているが、好天時には車椅子で散歩等を楽しんでいる。また、利用者の状況に応じてベランダや庭での外気浴を楽しんでいる。また、花見・紅葉狩り・初詣等の外出には少人数でドライブを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談した上で、お金を持っていた方が安心される方のみ、手元に少額所持していただく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて家族や知人に電話や手紙が出せるよう支援している。電話があったときには、本人につないでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内に温度計、湿度計が設置しており、常に気を配っている。ホーム内の飾り付けも季節を感じられるようにしている。	椅子と机、ソファの共用空間を中心に各部屋が配置されている。椅子のコーナーもある。共用空間からベランダと中庭に出られる構造になっている。ベランダでのお茶会や軽食等を楽しんでいる。壁には利用者の作品等が飾られ楽しい雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室、ホールのソファ、それぞれのテーブル、ウッドデッキなど地涌に気の合った同士で過ごすことができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	本人や家族と相談しながら、自宅で使用していただいたベッド、家具、写真などを持ってきて頂きその人らしい居心地の良い空間になるように支援している。	9部屋のうち2部屋は和室である。部屋にはエアコン・クローゼット・換気扇が設置され、介護ベットの事業所からレンタルしている。部屋には利用者のなじみの筆筒や椅子、写真、本人の作品等好みのものを備え自分らしい部屋を楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に、持っている能力を活かし生活出来るような環境作りに努めている。		